

これからの永遠

～柴犬のチョコ～



チコママ&ぺろまま

ワンコ友達を通じて知り合った二人です。

ブログ、書籍出版、作品展、絵本の発行など其々で

「犬達の幸せのために」と活動してきましたが

今回、お互いの愛犬の旅立ちを機に

一緒に一つの作品を作ることになりました。

「犬と心を通わせることの幸せ。」

それをこの作品で少しでも感じていただければ幸いです。

全ての犬と飼い主さんが幸せでありますように。

ペットロスで苦しむ方の心に、少しでも光が差しますように。

そして、この世から「ペットの殺処分」がなくなりますように。

それが私たち、そして今は空の上にいる

二人の愛犬の願いです。

## ■画像・文■

チコママ

ブログ「柴犬のチコ。」にて8年間、愛犬チコとの生活を綴ってました。

2014年4月、チコが旅立った後も心は共に。

現在はペット情報サイトPECOにて公式ブログを運営。

全てのワンコ達の幸せを願い、日々更新しております。

ブログ

[「柴犬のチコ。」](#)

[「PECOいぬ部 Byチコママ」](#)

## ■絵本■

ぺろまま

2009年から始めたブログをきっかけに「殺処分」の現実を知りました。

それ以来、独学でイラストを勉強し、優しい言葉とイラストで

「子供でも見れる殺処分問題」をテーマに殺処分の現実を訴える活動を

続けています。

ブログ

[「心がほっこりするブログ」](#)

[「ぺろままのほっこり工房」](#)

## ■絵本の言葉■

たいちよー

保護犬の預かりをしたり、保護犬たちの詩を書いて里親を見つける  
応援をしていました。

今は幸せになった元保護犬たちの詩を書いています。

[「小梅とさくらとトミー」](#)

- 1. 著者プロフィール
- 3. チコの旅立ち
- 4. チコ、あなたとの出会い
- 5. 共に楽しむということ
- 6. いろんな表情
- 7. ほめて、ほめて♪
- 9. 笑いの神様
- 10. いつも寄り添って
- 11. みんなが大好き
- 12. 夕陽にそまる、あなた
- 13. あなたが思う、幸せ
- 14. ヘソクリ
- 15. ドライブ
- 16. いつも一緒に
- 17. レインコート
- 18. あなたの見る夢
- 19. 大好きなもの
- 20. 田んぼで休憩
- 21. 最高の2ショット
- 22. 神様がくれた時間
- 23. 9歳のチコちゃん
- 24. チコの旅立ち
- 25. あなたが、いない
- 26. お母さん、思い出して！
- 27. あなたに誓うこと
- 28. お空のチコちゃんへ
- 29. おわりに
  
- 31. 絵本「お母さんへ」

## チコの旅立ち

---

2014年4月4日、午後十一時五十五分。

私の愛しい宝物、チコが天国へと旅立ちました。

やく一か月半の闘病の末の旅立ちでした。

享年9歳。

それは平均寿命からいうと短いけれど、チコにとっては精一杯めいっぱい踏ん張って私の傍に留まってくれていた時間なのだと今は思っています。

病気が発覚し、そしてそれが遺伝性のもので現在の医療では完治は望めず予後も悪いと聞いた時、私は声をあげて泣きじゃくりました。

まだこの子はここにいるのに、

こんなにも愛らしい姿で目の前にいるのに

何もできない自分が悔しくて情けなくてたまりませんでした。

チコじゃなくてお母さんが病気になればよかった。

なんで代わってあげられないんだろう

寿命を分けてあげられないんだろう。

お母さん、チコを一生守るからねっていつも言っていたのに嘘つきだよね。

ごめんね、ごめんね、何もできなくて本当にごめん・・・。

体の中に病巣があるにも関わらず、目の前にいるチコは何ら変わらず

フワフワと愛らしくて、この愛おしい子が近い将来いなくなってしまうと

思うと気が狂いそうでした。

いっそ、チコと運命を共にしたいとまで思いました。

でも、私がここで心折れる訳にはいかない。

こんな情けない私でも「チコのお母さん」なのだから最後までその役割を果たさなければ。

今後、どのように過ごす事が「私」ではなくチコにとって一番いいのかを見極めて決断を下さねばならない。

チコの考えや気持ちは、いつも一緒にいた私が一番分っているはず。

口がきけないチコに代わって私とその気持ちを汲み取り、その想いに沿ってあげなくては・・・。

そう思い直し、私は獣医さんにいくつかのお願いをしました。

残り少ない時間なら、少しでもこの子が楽に過ごせるようにして下さい。

一日一日を、なるべく今まで通りにチコらしく過ごさせてほしい。

いくばくかの寿命を延ばすための治療なら、受けなくていいです。

最後の最後まで「怖い、痛い」想いはさせたくありません。

どうか最期の時は、私の腕の中で静かに迎えさせてあげてください。

この子の傍に、ずっといさせて下さい。

涙で途切れ途切れになった私の言葉に、獣医さんはしっかり頷いて下さいました。

その日から、私とチコの新しい時間がスタートしました。

今までの楽しく希望に満ち溢れた日々ではなく、お別れするその日までゆっくり穏やかに過ごす事だけを考える切ない時間。

でも今まで以上に一緒に、ひたすら傍にいました。

チコが苦痛を感じないための点滴を打つ時は、獣医さんのご厚意で個室を提供していただき、二人一緒にゴロリと床に寝ころんでその数時間を過ごしました。

こんな状況なのに、二人で床に転がっていることが可笑しくなって私はチコを撫でながら笑いました。

私達、相変わらずだよ。

田んぼでもよくこうやって一緒にゴロンしてたもんね。

お母さん、チコと一緒にならどんな事も恥ずかしくなくなっちゃうんだよ。

変だよえって。

夜はチコの容態が急変してもすぐに救急病院へ駆け込めるように寝間着ではなく洋服を着て過ごしました。

自分の布団に入ることはせず、チコのベッドの脇に体を横たえ

その可愛らしい寝顔を一晩中ながめながら。

閉じた瞳にかぶさる、長いまつ毛。

まるで笑っているかのように見える、キュッと口角が上がったお口。

私とのお散歩をたくさん頑張った、可愛いアンヨ。

私の声に反応してピクピク動く三角のお耳。

嬉しい時にフワフワ揺れる、ドーナツのようにクルリと巻いた尻尾。

どれをとっても本当に愛おしく、どんなに眺めても飽きる事はありませんでした。

眠気なんて全く感じず、見つめるごとに愛おしさが更に増していく気がしました。

それらの時間は、親孝行なチコちゃんがくれた私への贈り物だったのかもしれない。

獣医さんの処方のおかげか、チコは目立って苦しんだり

泣いたりする事無く過ごせていました。

周りは、このまましばらく生きられるんじゃないかと希望を持ち始めましたが私には、日に日にチコの目に力がなくなっていくのが分かりました。

4月4日。

お別れの日、特別な予兆もなくやってきました。

いつものようにリビングで横になっていたチコの呼吸が深くゆっくりになってきているのを見て私はその時が近い事を悟りました。

すぐに近所の実家に住む母たちに電話をし、チコの傍にいて見守ってくれるようお願いしました。

そして冷たくなってきているチコの体に毛布をかけ

私も一緒にその中に入り、背後からチコを抱きしめました。

怖がりのこの子が、少しでも安心して旅立てるように。

ずっとずっと、お母さんが傍に付いている事がわかるように。

そして、いつもの添い寝のようにフワフワの胸元を撫でながら言い聞かせました。

チコちゃん、ありがとう。

お母さん、チコと会えて幸せだったよ。

チコちゃん、がんばったね。本当におりこうさんだったね。

いい子ね、いい子ね、もう頑張らなくていいよ。

お母さん、ここにいるからね。大丈夫、心配しなくていいからね。

今まで、本当にありがとう。

チコの呼吸が完全に止まるその瞬間まで、ずっと。

まるで眠るように旅立っていった、チコ。

最後に耳に届いたのは、どの言葉だったのかな・・・。

チコを送り出した後、私は「生きることだけ」に専念する日々を送っていました。

食事をとり、排せつし、眠る。

ひらすら、その繰り返し。

笑う事も泣き叫ぶこともなく、淡々と過ぎていく毎日。

一度泣いてしまえば、もう這い上がれなくなるくらい堕ちてしまうのが自分で分かっていたので全ての感情をシャットダウンし

頭をカラッポにして家に引きこもるばかりでした。

一番つらかったのは、夜でした。

いつもチコと一緒に入っていた布団に一人で寝るのが辛く

また寝付くまでの時間が怖くて私は毎晩、布団は敷かずにリビングに  
転がって朝まで過ごしました。

眠気が襲ってくるギリギリの瞬間までテレビやDVDを観て、何かを  
考えてしまう時間を作らない様にしながら。

そのまま朝を迎えてしまう日も少なくありませんでした。

そんな毎日をおくって3週間が過ぎた頃、私は自分の体の異変に  
気づきました。

腹部が、大きく膨れているのです。

家族に説得されて受診した結果、骨盤内に大きな腫瘍が  
できているのが分かりました。

それはかなり大きく既に周りの臓器を圧迫しており、そのせいで  
炎症が起きている事も。

微熱も続いていたのに気付かなかったのですかと医師に言われましたが  
その頃の私は体が辛いのか心が辛いのか、病気なのかそうでないのか  
自分でも分からない状態だったのです。

すぐさま大学病院に入院が決まり、チコの49日法要を待たず

私はそこで開腹手術を受けました。

麻酔を打たれる時一瞬だけ、チコはもういないのに自分が元気を取り戻す  
必要が果たしてあるのかと本気で考えましたが、そのまま眠ってしまいました。

麻酔のおかげとは言え、数時間も眠り続けたのはチコが発病してから  
初めてでした。

手術が終わり、麻酔から覚めた時

「もしかして、全ては私が見た長い悪夢だったのかも」

と思いましたが、やっぱりチコはどこにもいませんでした。

その日の夜、点滴のチューブや酸素マスクを装着した私は、術後に入る  
回復室でひとり泣きました。

自分が痛かったり苦しかったのではありません。

あの日、チコの手に繋がっていた点滴のチューブを思い出したからです。

病院が苦手だったチコ。

理由も分からず手に針を刺され、どんなに怖かったことでしょう。

今まで、チコがキレイな暑さや寒さや寂しさ、どんなものからも

守ってきたのに最後の最後で、あんなに我慢をさせてしまった。

あの子が不憫でたまらず、また自分の不甲斐なさに涙が止まりませんでした。

そんなふうに泣いて過ごしていたある晩、私はチコの夢を見ました。

お別れしてから初めて会うチコは、元気な頃と全く変わらないイキイキと  
可愛らしい姿をしていました。

そんなチコが私を見上げて言うのです。

「お母さん、なんでそんなに泣いているの？」

「チコ、お母さんを悲しませるために生まれてきたんじゃないよ。」

「チコと暮らして幸せだったでしょ。」

「もう一度、チコのために立ち上がって。」

「お母さんとチコ、あんなに仲よしだったじゃない。思い出してよ。」

そのあまりに一生懸命な様子に思わず手を伸ばそうとしたところで

目が覚めました。

自分の心の奥底にあった願望が夢になっただけかもしれません。

でも私には、それが本当にあの子の訴えのような気がしました。

私は居てもたってもいられなくなり、持参していたメモ帳を取り出すと

チコとの幸せな思い出を、思いつくまま順序もグチャグチャに

綴り始めました。

それをどうするとかいう目的はありませんでした。

チコからもらった「9年間の幸せ」を少しも色褪せないように、鮮明に  
焼き付いている今のうちに書き残さねばならない、ただそう思ったのです。

チコが私に残してくれた沢山の思い出。

それを辿りながら綴っていく作業は、とても幸せなものでした。

まるでチコとの人生を生き直すかのように。

親孝行なチコちゃんは、ヘタレなお母さんがグズグズ泣いているのを

見かねて、その可愛い肉球で背中を押すために夢に出てきてくれたの

かもしれません。

チコちゃん、ありがとう。

まだまだあなたを想って泣いてしまう日々だと思うけど

お母さんは大丈夫よ。

あなたがその生涯をかけて教えてくれたもの

残してくれたものがあるから。

お母さんはそれを決して無駄にしない。

あなたがお母さんの子供になってくれた意味を無駄にしないと誓うよ。

あの子が精いっぱい生きた、9年間。

私があの子を愛しぬいた、9年間。

それは今も私の生きる糧になっています。

もし再び、あの子と出会える世界があるのなら

その時は笑顔で再会したい。

あの、とびきりキュートな笑顔で駆け寄ってもらいたい。

そして、お母さん頑張って来たよって、めいっぱい抱き締めて報告したい。

そう思い、私は今の毎日を生きています。

チコの思い出と一緒に。

## チコ、あなたとの出会い

チコちゃん、お母さんと初めて会った日のことを覚えていますか？  
お母さんは、頭の中で再現できるくらい鮮明に覚えているよ。

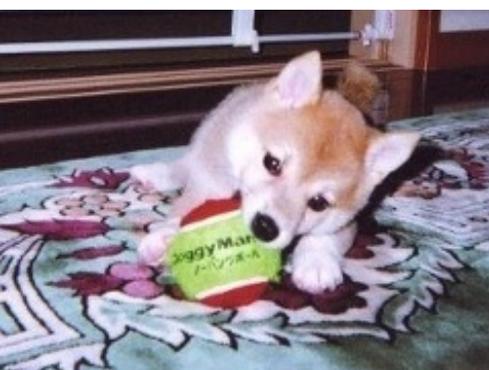
あなたはまだ本当に小さくて、私の両手にスッポリと  
収まってしまうくらいでした。

耳も立っておらず、毛も細かくフワフワで  
まるでヌイグルミの様な愛らしさ。

でもね、その体は母犬と離れた心細さからかブルブル震えていて  
ビー玉のように透き通った瞳も、お母さんの目には  
とても悲しげに映りました。

ああ、この子は泣いているんだ。

理由も分からず、抵抗することもできず親兄弟と引き離され  
悲しくて泣いてるんだと思ったよ。



チコちゃん。

あの時、お母さんは数度目の流産を経験したばかりでした。  
子を失ったばかりの私だからこそ、あなたの悲しみを余計に  
感じたのかもしれませんが。

初めてあなたを抱いた時、お母さんは強く思いました。

この子の傍にいてあげたい。

ずっとずっと一緒にいて、安心させてあげたい。

私でよければ、そうしてあげたいって。

そしてその日のうちに、あなたをお迎えする事を決めました。

本当は知人の付き合いで「子犬」を見に行っただけで

私自身はその気なかつたんだよ。

こういうのを、運命の出会いって言うのかな。

初めての「子育て」は戸惑う事も多くって、大変なこともあったけど  
小さなあなたを育て共に暮らしているうちに「母親になりたい」と  
切に願っていた私の心は、徐々に満たされていきました。

あなたの満面の笑顔を見るたびに  
信頼に満ちた瞳で見上げられる度に  
言葉にできないくらいの幸せを感じたよ。



もう無理だと諦めていたお母さんの夢を  
その生涯をかけて叶えてくれたチコちゃん。  
あの日、あなたと出会えたことはお母さんの人生で最大の幸運です。  
今も変わらず、そう思っているよ。



## 共に楽しむということ

「犬」と暮らすのが初めてのお母さんは最初チコとどう接していいのかわかりませんでした。あなたがどんな遊びが好きで、どんなことを喜ぶのか見当もつかなかった。

ドッグランにでかけたり珍しいおもちゃを買ったり色々と試してみたけど「最高に楽しい！」っていうお顔はなかなか見せてくれませんでしたね。

チコは私と暮らしていて楽しいのだろうか。もっと犬の扱いに慣れている人に飼われた方が幸せだったんじゃないだろうか。そんなことを思い、悩んだ時期もあったんだよ。

でもチコの事でクヨクヨしてしまうのは違う気がしてお母さんはある時から頑張ることをやめました。楽しませようと躍起になるのをやめたのです。その代わりに、毎日のお散歩にゆっくり時間をかけるようにしました。いっぱいいっぱい、話しかけるようにしました。チコちゃん、あなたのお顔が変わってきたのはこの頃からでしたね。





「チコちゃん、田んぼに小さなお花が咲いているよ、キレイね。」  
「ほら、あそこにネコさんがいるよ。可愛いね。」  
「今日は風が冷たいね。お家に帰ったら一緒にヌクヌクしようね。」  
私が声をかける度にあなたは、お目目キラキラのワクワク顔で私を見上げてくれました。

そんな様子を見て、お母さんは分かったのです。  
チコに必要なだったのは「特別な楽しみ」ではなく  
「お母さんと共有する楽しみ」だったのだと。  
楽しませるのではなく、ただ一緒に心から楽しめば良かったんだよね。  
スペシャルなお出かけもイベントもオモチャもチコは望んでいない。  
近所の広場だって小川だって、チコにかかればそこは  
最高の遊園地なのだから。





「お母さんと一緒なら、どこでも楽しい！」  
そう思い、毎日をイキイキと楽しんでくれたチコちゃん。  
あなたの無邪気な笑顔は、お母さんをいつも  
めいっぱい幸せにしてくれました。



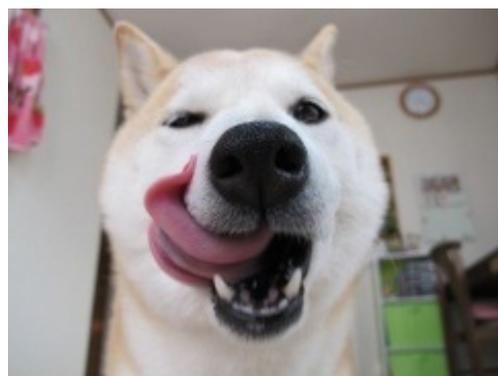


# いろんな表情

「楽しいね♪」のお顔、鼻に泥が付いて「はえ？」と戸惑うお顔。



ごはん食べて満足なお顔、オネダリ時のおすまし顔。



「お母さん、こっち見て～」なお顔、「やっちゃった！」なお顔。



チコちゃんと暮らすまで、ワンコがこんなに表情豊かだと思わなかったよ。  
どのお顔も大好きよ、チコちゃん。

## 褒めて♪褒めて♪

側溝のアミアミが怖くて、ちょっぴり躊躇しちゃうチョコちゃん。



上手にピョンツと飛び越えた後はいつも

誇らしげな顔で私を見上げたね。

きっと「上手に飛べたよ、すごいでしょ！」って言っていたのよね。

うんうん、すごいよ。チョコちゃん、上手だね♪



私が褒めると、本当に嬉しそうな顔になるチョコちゃん。

そんなあなたが可愛くて、お母さんは事あるごとに褒めまくりました。

「お水飲んだの？おりこうさんね。」

「ご飯、残さず食べたの。すごいね！」

「今日もいっぱい遊んで、本当におりこうさんだね。」

毎日が「おりこうさん」のオンパレードでした。



「今日も可愛くておりこうさんね。」

「いつも元気でいてくれて、本当におりこうさん。」

チコ、お母さんは本当にそう思っていました。

あなたの存在そのものが、おりこうさんだったのよ。

## ヤンチャさん

お家の外ではよく「おとなしいね」「お姉さんだね」と言われたチコちゃんだけど、お母さんと二人の時はいつまで経ってもヤンチャなワンパクさんでしたね。無邪気に遊ぶ姿、本当に可愛かった。



余所のお家の人の前ではとても行儀よくなったりワンコ同士のお友達にはオモチャを譲って自分は遠慮がちになってしまうチコちゃん。

そんなあなただから、お母さんの前で思いきりワガママ言ったりヤンチャする姿を見ると何だかとても安心しました。

イタズラもいっぱいしたし、お散歩が楽しすぎて「かえりたくな〜い」って駄々をこねた事もあったよね。子犬のころを思い出させるその仕草、可愛かったよ。



はしゃぎ過ぎて泥んこになった事も数えきれないくらいありましたね。

後のお手入れを考えるとゾツとしたけどそれよりも真っ黒になったチコの姿が可笑しくてちょっと「やっちゃった・・・」みたいな顔が可愛くてお母さんはいつも笑っちゃいました。

何より、何の遠慮もなく自分の本能そのままに振る舞う  
あなたのイキイキした様子が嬉しかった。



「フキフキしてあげるから、こっちにおいで。」  
声をかけると、ちょっぴり気まずそうに寄って来たチコちゃん。  
タオルで拭いても拭いても、強烈なあなたの汚れは  
ちっとも落ちなかったけど、ギュッと目を閉じ  
されるがままじっとしている姿はいつも私を  
甘く温かな気持ちにしてくれました。

ずっと昔、公園で転び泥んこになった私のスカートを  
「あらら、こんなに汚れて」と  
優しくパンパン払ってくれた母の姿。  
そんな母の姿と今の自分が、私の中で重なった気がしたから。  
こんな気持ち、チコちゃんと出会わなければ  
感じることでできなかったね。  
一生、味わうことなかったよ。

チコちゃん。

この広い世界で、私と出会ってくれてありがとう。

うちの子になってくれて、ありがとう。

・・・私を「お母さん」にしてくれて、本当にありがとう。



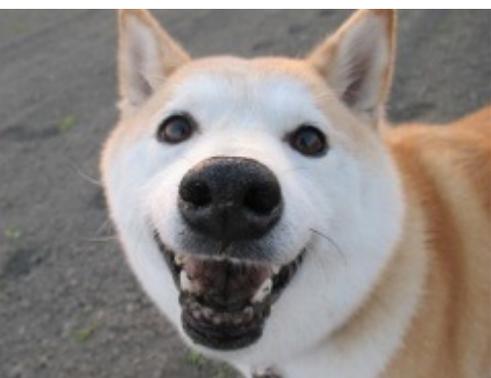
# 笑いの神様

チコちゃん、あなたにはよく笑いの神様が降臨していましたね。  
何気ない生活の一シーンでも、思わず吹き出しちゃう事が  
いっぱいあったよ。



無邪気で、ちょっとおトボケなあなたの行動や表情が  
いつも家の中を明るくしてくれました。  
あなたは我が家の太陽でした。





チコちゃん、可愛いよ。  
ほんとうに、かわいい。

## いつも寄り添って

お母さんと二人の時はマイペースなお転婆さんなのに  
ばーたんとは歩くときは、ゆっくりゆっくりなチコちゃん。  
カートの速度に、上手に合わせていましたね。



教えた事なんてないけど、優しいチコちゃんは日頃の生活から  
「ばーたんは足が悪い。早く歩けない」って  
分かってくれていたのよね。

自分はヒョイツと飛び越せちゃう溝の前で立ち止まったり  
腰掛けられる場所があったら休憩を促したり。



その優しさは、旅立つ直前まで変わらなかったね。  
チコちゃん。

あなたのその優しさは私たち家族の誇りです。

## みんなが大好き！

チコちゃん、あなたは本当に人が大好きな子でしたね。

人の姿を見つけると、自分から寄って行き

「ナデナデして♪」と要求していたよね。

日本犬は飼い主以外には懐きにくいって聞いていたお母さんは

その姿を見る度に嬉しいけど、ちょっぴり妬げちゃうような

複雑な気分になりました。



生まれて一度も「コワイ人間」に遭った事のないあなたは

周りにいる全ての人のことを「自分に優しい存在」だと

信じていましたね。

それはチコちゃんにとってもお母さんにとっても

凄く幸せなことでした。

みんなに感謝しようね、チコちゃん。

## 夕陽に染まる、あなた

チコちゃんと歩く散歩道には、お母さんにとっても  
新たな発見がたくさんあったよ。

初夏の新緑の美しさ。

立ち込める朝霧の向こうに見える、水墨画のような山々。

春は小さな白い草花に埋め尽くされて

じゅうたんを敷き詰めた様になる原っぱ。

近所の公園を彩る、小さいけど美しい紅葉の樹。

冬の朝、真っ白な霜をジャリジャリ踏む楽しさ。

今までもすぐ傍にあったはずの景色なのに

チコと暮らすまで全く気付かなかったよ。

中でも秋の夕暮れは格別に美しくて

チコとお母さんは田んぼを囲む小さな砂利道に並んで腰掛け

よく一緒に眺めましたね。

山の向こうに沈んでいく、大きな夕日。



それに照らされ、目の前にある景色の全てが  
鮮やかなオレンジ色に染まる。

遠くに見える山々も、道路を走る車も、田んぼの稲穂も

そしてチコちゃんも。

毛色のせいか夕日に染まったあなたは本当に

キラキラと眩いくらいに輝いて見えました。



お母さんはその輝きに「命の尊さ」や「チコの純粹無垢な美しい心」が表れている気がしていつも何故だか涙が出たよ。

チコちゃん。

この世に生まれてきてくれてありがとう。

私と共に生きてくれてありがとう。

そおっと抱き寄せるあなたの被毛からはいつも

お日様のような懐かしい匂いがしたね。

ぽかぽかと温かく、お母さんを安心させてくれる香り。

今は懐かしく、恋しくてたまらない、あなたの香り。

## あなたが思う、幸せ

チコちゃん、あなたは特別な事や贅沢を望まない子でしたね。  
一日二回のご飯、お散歩、オヤツ、ボール遊び・・・  
毎日、その繰り返しなのに、あなたはそれらを  
「最高に幸せ！」というお顔で心底、楽しんでくれました。



「お母さん、楽しいね！」

「お母さん、チコと遊ぼうよ！」

キラキラした瞳で見上げるあなたが、私は愛おしくてたまらなかった。



そして思っていました。

私は、当たり前なことしかあなたにしてあげられないのに

何故こんなに私との生活を楽しみ

ここまで幸せなお顔ができるんだろうって。



無垢で無欲で清らかなチコちゃんは  
「お母さん達と一緒にいられるだけで、幸せ」  
そう思ってくれていたのかもしれませんが。  
とてもシンプルだけど私達人間はなかなか持てない  
純粹無垢な愛情。  
あなたはそれを、自身の生涯を通して私に教え  
与え続けてくれました。

# ヘソクリ

オヤツをお庭にヘソクリするのが好きだったチコちゃん。



一生懸命ホリホリするお手手も可愛いけど・・・



掘り終わったお顔は、もっと可愛いよ。

# ドライブ

お車に乗るのが大好きなチコちゃん。  
よく一緒にドライブしたよね。  
ワクワクしながら窓の外を見るあなたの横顔と  
風にパタパタはためくお耳、可愛かったなあ。



どこに行ってもあなたは極上の笑顔を見せてくれましたね。  
遊び疲れてウトウトするあなたを隣に乗せた帰り道  
とっても幸せだった。



あなたがもう少し歳をとったら乗り降りしやすいものに  
買い替えようと思っていた、お母さんの車。  
逆に手放せなくなっちゃった。

あなたとの思い出が、いっぱい詰まっている気がして。

もうしばらく、頑張って乗り続けるね。

## いつもいっしょに

朝起きると、すぐ横にあるあなたの可愛い寝顔。  
分け合って一緒に食べるオヤツ。



たくさんオシャベリしながら歩く、散歩道。  
部屋中に響く、あなたのはしゃいだ足音と  
オモチャがピーピー鳴る音。



そして一日の終わり、寄り添って眠る温もり。  
その全てがお母さんの宝物でした。

# レインコート

雨の日も雪の日も、年中無休でお散歩を楽しんでいたチコちゃん。  
お洋服は苦手だったけど「雨の日のレインコート」だけは  
ゴキゲンで着てくれましたね。  
イチゴやカエルさんがデザインされたカッパを着て  
チョコチョコ歩く姿は小さな子供のようで、本当に可愛らしかった。



そして雨上がり。  
家族の洗濯物と一緒に干されたあなたのレインコートは  
一番ちっちゃくて、でも一丁前に風に靡いていて  
またまた可愛らしかったよ。  
お母さんはそれを見るたび、何とも言えない幸せを感じていました。

# あなたのみる夢

遊んでいる時、食べている時・・・

どんな姿も最高に可愛いチコちゃんだけど  
子犬の頃から変わらないあどけなさを一番感じたのは  
寝ている時かもしれません。

ご飯を食べて満足した後や、遊び疲れてネンネするその姿は  
本当に愛らしかった。

あなたの寝息がかすかに聞こえるリビングは  
いつも甘く温かな空気に包まれていたよ。



冬の寒い日は、お母さんと一緒の布団に入ってお昼寝したね。

チコちゃん、お母さんの腕枕や膝枕が好きだったよね。

お互いの体温でヌクヌクになったお布団、本当に気持ち良かったね。





私に体を委ねて眠る無防備なその姿、どんなに愛おしかったことか。

チコちゃん、私を信じてくれてありがとう。

お母さんの子供になってくれて、ありがとう。

いつもそんな気持ちで、あなたの寝顔を眺めていたよ。

そして願っていました。

あなたの見る夢が、いつも楽しく幸せなものでありますようにって。

その為に、毎日もっともっと楽しませたい。

美しいものを見せてあげたい。

この子に降りかかる困難は、私が全て取り払ってあげたい。

そう思えることが、思わせてくれるあなたの存在そのものが

お母さんの生き甲斐でした。

生活のあらゆるシーンで私に幸せをくれたチコちゃん。

あなたはお母さんにとって、天使そのものだったよ。

# 大好きなもの

チコちゃんが好きなもの・・・

美味しいオヤツ、お母さんとのボール遊び



フカフカな毛布、お庭での日向ぼっこ、お友達とのかけっこ。



電線に止まるスズメさん、散歩道で遭遇する可愛いネコさん。

「好き」がいっぱいあるチコちゃんだけど

中でも特に大好きだったのがウサギさんでしたね。

お散歩の帰り、近所の保育所にあるウサギ小屋を見に行くのが

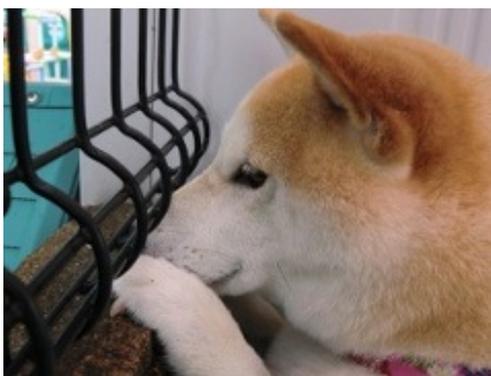
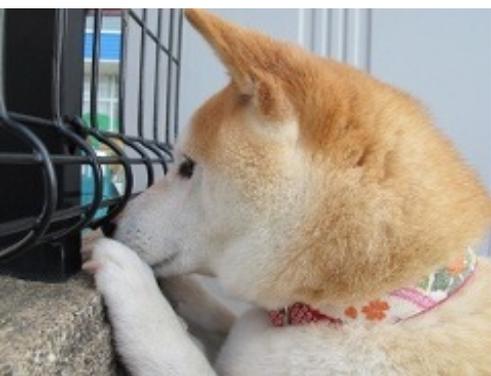
チコちゃんの日課だったよね。



いっしょうけんめい背伸びして小屋を覗き込む

チコちゃんの姿、可愛かったなあ。

ウサギさんを見つめる瞳が優しくて、ちょっぴりお姉さんに見えたよ。



自分の周りに沢山の「好き」を持っているチコちゃん。

それはお母さんにとっても、すごく嬉しいことでした。

## 田んぼで休憩

チコちゃん、あなたとの散歩は本当に楽しかった。  
何の変哲もない近所のお散歩コースでも、あなたと一緒になら  
色んな発見があって、毎日が小さな探検、冒険のようだったよ。  
ただ広だけの原っぱや田んぼも  
あなたにかかれば楽しい遊園地。  
小さな虫さんや珍しいお花、小鳥さんの巣を上手に見つけて  
それを誇らしげに、お母さんに見せてくれましたね。

自然の中をイキイキと走り回るあなたの姿は本当に愛らしく  
そして生きる喜びに満ち溢れていて  
お母さんはそれを眺めるのが大好きだった。  
あなたの楽しそうなお顔が、お母さんの幸せそのものだったよ。



二人でめいっぱい遊んだ後は

一緒にあぜ道に腰を下ろして休憩しましたね。

お母さん、チコと一緒にズボンのお尻が汚れることも

ご近所さんに目撃されちゃうことも全く気にならなかったよ。

目の前のあなたが可愛すぎて

その楽しさを共有できることが嬉しくて

自分のことはどうでも良くなってしまふ。

お母さんが腰を下ろすと、あなたは必ず足の間に入ってきましたね。



広い田んぼで二人、身を寄せ合うこの時間がお母さんは大好きでした。

普段は抱っこを嫌がるのに、この時だけはお母さんが両腕を回しても

うっとりとして身を任せてくれたから。

あなたの体を背後から抱きしめ、お母さんはいつも思っていました。  
こうやって両腕でつかまえておけば、ずっと傍にいてくれるだろうか。  
誰からも、何からも奪われることなく  
いつまでも一緒にいられるだろうかって。

ジーンズを通して感じたあなたの温もり  
フワフワな胸毛の感触、まだ覚えているよ。  
後頭部越しに見えた雄大な田園風景も  
幸せなのにどこか切ない、あの気持ちも鮮明に。

## 最高の2ショット

チコちゃんのあらゆる場面を記録したくてお母さんは沢山の写真を撮ってきました。ちゃんとした記念写真ではなく、どれも普段の生活のワンシーンを切り取ったものばかり。でもそれで良かったってお母さんは思っています。こうして見返していると、チコちゃんとの毎日がイキイキと蘇ってくる気がするから。似たような写真もいっぱいだけど、その一枚一枚がお母さんの宝物です。

以前、お友達に言われた事があります。

「自分との2ショットも撮っておいた方がいいよ」って。

そう言われてみると、あなたと一緒に写った写真は、殆どありません。

あなたに触れる手が、たまに写りこんでいるくらいで。



やっぱり、記念として一枚くらい撮った方がいいのかな・・・

そんな事を思いながら写真を整理していた時

お母さんはある事に気がきました。

こちらを見上げるあなたの澄んだ瞳の中に

お母さんがくつきり映っているのです。

あの写真もこの写真も・・・ほとんど全て。



それはあなたが

お母さんをいつも真直ぐに見つめてくれている証でした。

ありがとう、チコちゃん。

頑張って撮らなくても、お母さんの姿は既に

チコちゃんの瞳の中にあっただね。

最高の2ショット写真だよ、チコちゃん。

## 神様がくれた時間

7歳を過ぎた頃からかな。  
チコちゃんの被毛に、白いものが目立つようになってきました。  
自分の白髪はなにも気にせずフンツと引っっこ抜いちやう  
お母さんだけど、あなたの白い毛には少し寂しさを感じたよ。

もちろんどんな毛色だってチコは最高に可愛いけど  
それが加齢による変化だと思おうと  
急に現実を突き付けられたような  
不安な気持ちになってしまいました。  
ネットで調べたあなたの年齢は  
人間に換算するとお母さんのそれを既に超えていたから。  
しかもその差は、これから先どんどん開いていってしまう。



納得いかないよね。  
中身は、子供の頃そのままの無邪気で愛らしいチコなの  
に体だけが凄いスピードで歳をとってしまうなんて。  
神様はどうして、チコちゃん達をそんなに急がせるのかな。





チコちゃん、お母さんはいつも思っていました。

あなたの「神様がくれた時間」を変える事ができないのなら  
せめてそこに、出来る限りの幸せを詰め込みたいって。

お母さんなりに、めいっぱい頑張ったつもりだけど  
あなたからもらう幸せの大きさには、最後まで追い付けなかったな。  
チコ。

初めて会ったあの日、ブルブル震えるあなたを見てお母さんは  
「私がこの子を幸せにしたい」って思った。

でもそれは思い上がりでした。

実際は、私の方がチコちゃんに幸せをもらってばかりでしたね。

太陽の光を浴びると、キラキラ輝くチコちゃんの白い被毛。

それはやっぱり切ないけど、お母さんにはとても美しく見えたよ。

## 9歳のチコちゃん

チコ、あなたと暮らし始めて9年以上の年月が経ちました。  
9年と言う時間は、お母さん達にとっては人生のほんの一部だけど  
あなた達には凄く大きくて、もうそんなに過ぎてしまったのかと  
お母さんは焦りを感じます。  
まだまだ一緒にやりたい事がいっぱいあるのに。  
あなたに幸せをもらった恩返し、ちっとも出来ていないのにと  
こんなのんびり屋のお母さんの為に  
これからはゆっくり歳を重ねて行ってね。

昨日より今日、今日より明日。  
日に日に愛おしさが増していく、チコ。  
あなたの時間が、少しでもゆっくりとお母さんと同じペースで  
流れてくれますように。



チコ、あなたと出会ってからお母さんの人生は大きく変わりました。  
特別な事なんて一つもないような平凡な日々の中にこそ  
幸せはあるんだって知ることが出来たから。  
一日一日を全力で、めいっぱい楽しみながら生きているその姿が  
お母さんに教えてくれたんだよ。

散歩を心待ちにして外を眺める可愛い後姿。

一緒に歩きながら「楽しいね！」と私を見上げるキラキラした瞳。

お友達を発見し、嬉しそうに駆け寄って行くときの

まるでスキップのような足取り。

オヤツを食べる時のワクワク顔。

野原でバッタを見つけた時にパタパタ揺れる、可愛い尻尾。

家族が帰宅した時に見せる、極上の笑顔。

私の横で眠る、とっても幸せそうな寝顔。

生活の全てのシーンをとても丁寧に、大事に生きているチコ。

そんな小さな体でお母さんの人生観を変えちゃうなんて

やっぱりあなたは凄い子です。

出会えた奇跡に、心から感謝しているよ。

チコちゃん。

私を見上げるあなたの瞳が最近とても優しく穏やかで

お母さんはたまに涙が出そうになります。

私の至らなさも頼りなさも全てを許し

受け入れてくれている様な、慈愛に満ちた瞳。

あなたはお母さんの子供なはずなのに

まるで立場が入れ替わっちゃったみたい。

でも、本当にそうかもしれないね。

常に家族を見守り、愛し

一番心に寄り添ってくれているのは他の誰でもなく

チコちゃん、あなたなのだから。

そんなあなたの「愛」がお母さんはとても嬉しいけど

同時に少し切ない。

あなたには、ただただ幸せでいて欲しいから。

何も考えず、毎日を思いきり楽しんで欲しいから。

だからたまには子供の頃みたいにワガママ言ったり

ヤンチャしてね。

どんなに月日が経っても、体が大きくなっても

あなたの被毛に白髪が目立つようになってきても

チコちゃん、やっぱりあなたは私の可愛い子供です。

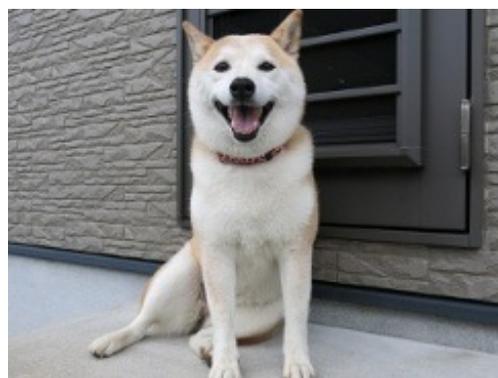
いつまでも。



子供の頃からお母さんの元で、色んな事を覚えてきてくれたチコ。  
これからは少しずつ「できない事」が増えていくかもしれません。  
でも怖がらなくていいのよ。  
それが年齢を重ねるということ。  
とても自然な事なんだから。  
できない事はお母さんがお手伝いするから  
チコちゃんは安心して、これからの人生を生きて行ってね。  
大丈夫、何も心配しなくていいからね。  
チコが嬉しい時も悲しい時も辛い時も  
どんな時もお母さんは傍にいる。  
ずっと傍にいるからね。

# チコの旅立ち





2014年4月4日。

最愛のチコが空へと旅立ちました。

どんなに願っても、泣いて縋っても

あなたの病気を止めることはできなかった。

チコちゃん。

お母さんはある時期から心に決めていた事がありました。

最期の時は無理に引き止めず

穏やかに安心して旅立てるようにしようと。

チコちゃん、私、ちゃんとできたかな？

最後の「お母さん」としての役割、果たせたかな・・・。

# あなたが、いない

変わらず過ぎていく時間。

変わらない風景、巡っていく季節。



そこに、あなたの姿だけがない。

どこを探しても、もういない。



お母さんはしばらく理解できなかった。

なぜ、あなたがいないのか。

今が現実なのか

それともチョコと暮らした幸せな日々の方が現実だったのか。

そのくらい、お母さんの生活は一変してしまった。

キラキラに輝いていた景色も、全て白黒になった気がした。

チコちゃん、あなたはお母さんの全てでした。

# お母さん、思い出して！

「お母さん、どうして泣いてばかりいるの？」



「チコ、お母さんを悲しませるために生まれてきたんじゃないよ。」

「チコと暮らして幸せだったでしょ。」

「お母さんとチコ、あんなに仲よしだったじゃない。思い出して。」

「お母さん、立ち上がって。チコのためにもう一度立ち上がってよ。」



あなたを失い、白黒の世界で生きていたお母さんは夢をみました。

夢の中のあなたは、まるで星の粉を身にまとった様にキラキラで

そして、お母さんの元で過ごしていた頃と変わらない笑顔でした。

そんなあなたが一生懸命に訴える言葉の数々に

お母さんはハッと我に返りました。

あなたが愛おしいからこそ

その生涯を「悲しい思い出」にしてはいけない。

堕ちたままではいけない、そう思ったよ。

チコちゃん。

お空の上から、お母さんのいる場所は遠かったでしょ？

心配して会いに来てくれたの？

ありがとう。

お母さんは大丈夫だから、なにも気にせずゆっくり遊びなさいね。

## あなたに誓うこと

---

一目でいい。もう一度あなたに会いたい。  
フワフワの胸元を撫でたい  
おりこうさんねって抱きしめてあげたい。

その想いは今も発作のようにおそってきて  
その度にお母さんは胸が苦しくなる。  
9年しか生きられなかったあなたを思うと  
たまらない気持ちになる。  
少しでも気を緩めると  
それらの想いに飲まれて沈んでしまいそうになる。

だけどお母さんは  
歯を食いしばってでも前に進むことに決めました。  
あの日、病室のベッドで眠る私に会いに来てくれたあなたの  
「悲しませるために生まれてきたんじゃない」という  
言葉と想いを無駄にしないように。

あなたが精いっぱい生きた9年と  
最後まで私に寄り添ってくれた尊い魂を  
お母さんは絶対に無駄にしない。  
約束するから安心してね、チコちゃん。





## お空のチコちゃんへ

---

チコ、あなたが旅立ってから一年以上の月日が流れました。

そちらの世界はどうか？

お友達と楽しく遊んでいますか？

大好きなオヤツ、いっぱい食べていますか？

お母さんはもう、あなたに毛布をかけてあげる事も

ご飯をあげる事もできないけど

お空の上はとても温かく快適で幸せな場所だと

聞いたことがあります。

だから大丈夫だよ。

きっと、あの飛び切りの笑顔で毎日を楽しんでくれているよね。

チコちゃん、今も我が家のリビングは、あなたの写真だらけです。

お母さんはそれを眺めていると、不思議な気持ちになる事があります。

こんなに可愛い子が、本当にうちにいたのかな～って。

実はあの9年間は、神様が見せてくれた

「幸せな幻」だったんじゃないかなって。

そう思っちは一人で焦って

あなたが使っていた毛布を胸に抱きながら

かすかに残っている香りや被毛に、あなたの面影を探しています。

変なお母さんだよ。

チコは確かに、ここにいてくれたのに。

それだけ、夢の様に幸せな日々だったって事だよ。

チコちゃん、お母さんは最近、健康のためにお散歩を始めました。

チコと歩いた、あの道だよ。

以前と何も変わらない景色なのに

右斜め前にあるはずのチコの可愛いお尻だけが見えなくて

やっぱり寂しいです。

あなたに置いてきぼりにされたような寂しさを感じます。

そんなこと言ったら「9年間も傍にいてあげたでしょ」って

怒られるかな。

チコちゃん。

あなたが旅立つ日、特別な前兆もないのにお母さんはある予感がして

あなたを胸に抱き、家中を歩きましたね。

ほら、ここが和室だよ。

チコちゃんが元気に走り回ったおかげで畳がビリビリだね。

ここがリビング。お母さんとずっと一緒に過ごした場所だよ。

窓の外に見えるのがお庭。

チコちゃんがヘソクリを埋めた花壇が見えるでしょう？

チコちゃん、あそこで日向ぼっこをするのが好きだったよね。

そして最後に、玄関にある大きな鏡の前に立って約束したね。

ほら、そこに映っているのが

チコを抱えているのがお母さんよ。

しっかり覚えていてね。

そしていつか生まれ変わってくる事があつたら、必ず探してね。

もう一度、あなたの「お母さん」にしてちょうだいね。

約束よ。

あの時、鏡越しにしっかり目が合った気がするけど、どうかな。

毎日チューされたりベタベタされたりするから

もう嫌だ〜って思っているかな？

最愛のあなたを失った後、お母さんは苦しみました。

心も体も、どうにかなっちゃうんじゃないかと思うくらい。

それでもやっぱり、あなたと出会えて良かった。

あなたと出会えたことで、私は「お母さん」になれたから。

人生が何倍も、何万倍も幸せなものになったから。

「チコ」「チコちゃん」

お母さんは、あなたの名前を呼ぶのが大好きでした。

あなたの名を口にする、それだけでいつも温かい気持ちになれた。

もう一度、呼びたい。

あなたの名前を呼んで、こう続けたい。

「チコちゃんはお母さんの宝物、大好きよ。」

もう何千回も聞いてきたよって、チコちゃん呆れちゃうかな？

お空の上は遠すぎて、お母さんの声は残念ながら届かない。

だからこれからは、心で語りかけるね。

せめて、この想いだけでもあなたの傍にいられますように

そう願って。

お母さんの宝物、チコちゃん。

9年間、めいっぱい幸せを本当にありがとう。

大好きよ。



## おわりに

---

最愛のチコを失った後、私は体も心もボロボロになりました。

病院嫌いのチコを、仕方なかったとは言え

通院させてしまった事への罪悪感。

9年しか生きられなかったあの子への憐憫の情。

もちろん自分自身が寂しい悲しいという気持ちもありましたが

私はこの二つの感情に特に苦しみました。

そして、世の中にはもっと辛い境遇の方も沢山いらっしゃるのに

「ペットを亡くしただけ」で、ここまで堕ちてしまう自分は

甘えているのかもしれないという苦悩もありました。

ひたすら慈しみ、その相手からは無償の愛情をもらうという

無垢な関係は、もしかしたら人と動物の間にしか

存在しないのかもしれないかもしれません。

愛という純粋な絆だけで結ばれていた存在

しかも我が子のように育ててきた存在を失うのですから

もがき苦しんで当然だったのだと、一年以上経った今なら思えます。

この悲しさはきっと一生消えないと思いますが

それもチコが私と共に生きてくれた証だと思い

しっかり向き合っていこうと思っています。

共に生活している時も本当に沢山のことを私に教えてくれたチコ。

お空に帰った今も「感謝する心」を私に教え続けてくれています。

チコがいなくなった後、私を支えてくれた友人たちへの感謝。

最後までチコと私達家族を懸命にサポートして下さった

動物病院さんへの感謝。

そして、実際にお会いした事もないのに心底チコを愛して下さった

優しいブログ読者様への感謝。

チコが私に残してくれた世界は、本当に温かい。

だから私は、寂しいけど幸せです。

9年と言う短い生涯を私に捧げてくれたチコ。

彼女がきっと一番望んでいる「全てのワンコ達の幸せ」を

共に願いつつ、私にできる事はないかと模索する毎日です。

それがチョコへの、そしてチョコを可愛がって下さった皆様への  
恩返しになると信じて。

私のそばにいてくれた9年間、そして

住む世界は離れても心は共に寄り添い続ける

これからの、永遠。

ずっとずっと、離れずにいようね。

チコちゃん。





お母さんへ



お母さん

チコはお母さんと出会えて幸せだったよ。  
大好きだよお母さん。

最後に伝えた言葉。  
お母さんにちゃんと伝わったかな…。



いつもの散歩道。

いつもと変わらない風景。

田んぼ大帝国。

一緒に歩いたあぜ道。

朝が来て、また夜が来る。

毎日がいつもと同じ。



なのに…そこにはチコだけがない。

息が詰まるほど胸が苦しい。



泣かないで。

お母さんが涙を流すと

チコはお母さんの顔が霞んで見えないよ。

チコはそばにいるよ。

いつも一緒。

今も。



目を閉じて…

チコの存在を感じて。

いつもと変わらない優しい手で触れてみて。



お母さんを映す澄んだまんまるな瞳。  
お母さんの匂いを嗅ぐ黒く大きな鼻。  
お母さんの小さな声も聞き逃す事のない  
ピンと立つ三角な耳。



お母さんを探しあてる つむじクルリの尻尾のアンテナ。  
肉球のこおばしい香り。



いい子だねって、丸い背中を抱き寄せて。



ね。

チコはそばにいるでしょ。

お母さんとの出会いは運命でも奇跡でもない。

これからの日々愛は募り

もつともつと絆は強くなる。



お母さん、チコはずっとお母さんの子。

そうなの。

この世で出会うずっと前からお母さんの子。



著者：チコママ&ぺろまま



## これからの永遠

<http://p.booklog.jp/book/99697>

著者：チコママ&ぺろまま

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/perochico/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/99697>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/99697>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ